

19/7/5 名古屋城木造天守にエレベーター設置を実現する実行委員会が大村知事に名古屋城木造化の件で助言、あっせん等の救済申し立てを手渡しした際の文字起こし

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

近藤祐次共同代表：どうもお忙しい中ありがとうございます。今日は名古屋城エレベーター問題に際して、申立書を持ってきましたので読み上げさせていただいた後に、お渡しさせていただきます。

(申立書 <http://www.nagoya.ombudsman.jp/castle/190705.pdf>)

よろしく願いいたします。

知事：頂戴いたしました。ありがとうございました。

ちょっと私から申し上げますが、今この場でも概略申し上げますが、今日はですね名古屋城木造天守閣復元事業に際し、愛知県障害者差別解消推進条例に基づく知事による助言あっせん等の救済申し立ての文書をいただきました。謹んで承りました。

この点についてはかねてから私もですね、名古屋市と障害者団体の皆さんとかですね、しっかりと議論協議をしていただいて、よりよい方向、結論をみていただきたいということを申し上げてまいりました。

そういう中ですね、こういう救済の申し立てをいただきました。今年の2月議会、県議会におきまして条例改正を行いまして、この愛知県障害者差別解消推進条例に基づく助言あっせん等の対象に、行政機関等、国、独法、市町村そうしたところもですね対象になる改正をさせていただきました。なのでですね、この点について今回の救済申し立てを踏まえてですね、私どもとしてはしっかりと適切に対応していきたいというふうに思っております。なのでですねまた引き続きまたご意見をお伺いしながら取り組んでいきたいと思っております。

なお、先ほど言われました先週ですねG20のサミット会合、大阪での会合において安倍総理がですね、大阪城についてですね、エレベーターをつけたことがミスだという発言をされたことについて、私はですね今週の2日火曜日の定例記者会見におきまして、バリアフリーを進めていかなければならない政府のトップがですね、そういう発言をするあたかもバリアフリーでなくてもいいんだというふうにとられかねないような発言をしたということは極めて問題だと、私はこの発言を極めて不適切な発言だというふうに申し上げております。でもって早いとこ取り消された方がいいと。取り下げるべきだということを申し上げます。

全くそういうことでありますのでそういった私の思いもありますが、今回いただきました救済申し立てはしっかりと受け止めさせていただいて、関係部局においてしっかりと精査をし適切に対応していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。今日はご苦勞様でした。

近藤：ありがとうございます。

知事：じゃどうぞ。

辻直哉事務局長:事務局の辻です。本日はお忙しい中お会いしていただきありがとうございます。また、誠意ある回答を先ほどお答えいただきありがとうございます。心強く思います。この間の経緯に対して共同代表の斎藤縣三より少しお話をさせていただきます。

斎藤縣三共同代表：かねてからご存知の様に市長に対して名古屋城のことを言ってきました、最近私どもと顔も会わせてもくれないので、この間署名を 2 回提出させていただいたんですけども、総合事務所の方へ渡すしかなくて、それから今、総合事務所として障害者団体に話し合っ、そしていわゆる新技術をですね国際コンペをするというふうにおっしゃってるんですけど。私たちはあくまでその国際コンペやるのであれば、そのときにもう一度バリアフリーとはなんであるかということを見直すところからエレベーター技術も含めた新技術を検討してほしいと言っているんですけど。その大前提は全然変えられないものですから、今回の安倍首相の発言を含めてやっぱり問題にしないといけないと思いますのでぜひ知事のほうでのご協力をお願いしたいなと思います。

辻:私からも一言よろしいでしょうか。

知事：はい。

辻:前回昨年 5 月に、この同条例に基づいて救済あっせんの申し立てを行いました、その時は行政機関が対象になっていないということでしたが、先ほど知事さんがおっしゃった通り、3 月議会で行政機関についても対象にすると、こういう条例に変わりましたので、条例に基づいてですね、助言あっせん、救済をぜひお願いしたいと思います。

この書面に書いてありますが、それこそ様々な誹謗中傷を受けております。

ましてや安倍総理の発言によっても様々なところでいろんなお声をいただいて私たちはただ、障害がある人もない人も、全ての人にとって利用できるものを、ただそれだけを望んでいるにもかかわらず、「お前らわがままだ」とか、そういうことを言われてして言われている現実がある。

これについてできるだけ早く救済をお願いしたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

斎藤：知事、あの、こういう名古屋市とか行政機関に対してやるっていうのは難しい面は

ないのでしょうか。

知事；いやあの、ご案内のように条例改正を3月に行いましたので。行政機関等国も国の機関、独立行政法人も地方公共団体も救済申立ての対象になりますのでですね。そこは今日いただいたご意見も踏まえまして、これまでの事実関係をしっかり精査してですね、適切に対応していきたいというふうに思ってます。それはそれこそまたきっちりこれはやっていきたいと思いますが。あの、まあただその前段として、基本的には名古屋城の今回の事業については現段階ではもう進まないということがですね、まあ明らかになったということなので、そういうことというとあれですけども、皆さんあんまり心配されなくてもいいんじゃないかという気がしますけどね。現状ではもう文化庁も全く全く動かないということなんです。名古屋市さんもその本当のこと言われないもんですね、不思議でしょうがないんですが。私は会見で「もうそろそろ本当のことを言ったらどうなんだ」と。文化庁がこういう指摘を受けているじゃないかと。記者発表で項目まで全部読んであげましたけど。それに対して、要はあの天守閣というか名古屋城は石垣とあのお堀のね。あれがすべてあれがあの特別史跡、国宝なんだと。

石垣の調査やりましたかと。ちゃんと保存し整備する計画を作りましたかと。やってくださいねっていうことに対して、きちんとした返事がないっていうことですから、ずっと協議にもならない。あの文化財審議会ですね、あの調査委員会でしたっけ？調査会でしたかね。日程なんか、日程調整なんかしてませんよ。目途なんかないのだから。日程調整してるとかいつてなんか名古屋市いわせるけど今週発表されていましたが、事実ではありませんもんね。だから現行のままだったら未来永劫動かないんですもん。もう。それどうするんのかと。

で片やもう100億円の木材契約調達しちゃいましたからね。どうするんですかね。本当。いやだからそれこそそういうなんでこうなっちゃったのか。そういう事実関係を私はね、解明してほしいって言ってるんですよ。もちろんそれに至る過程の中でですね、このバリアフリーの問題、ああいう形で進められてるのを私ずっと隣でみてて極めて遺憾だなあと思っただけで見てましたけどね。

斎藤:知事さんおっしゃるように全く河村市長本当の事を全然市民に明らかにしていないし、議会にたいし説明してないし、やっぱり隠し事ですね、オンブズマンなんか情報公開してもみんな黒塗りで公開してもらえないので、そこら辺の秘密主義はどうにもならんという気がしますけど。

知事:でもどういふ事やっても今のままではできない、ということは明らかなんですよね。どうされるんですかね。よくわかりませんね。

辻:それこそですね、電話メール等のそれこそ誹謗中傷のですね、今回の G 20 でまた再燃してですね、できるだけ早くこの問題を救済していただきたいと思います。

それこそ名古屋市がしっかりとですね私達で説明をしていただいてしっかりと情報公開し、これは無理なんだと、早く知らせていただければもちろん、そういう意見もなくなるとは思うんですけども。ずっとこのりくらしというのですかね、暗礁にのりあげたとかそういう言い方をされますが、もともと私たちはこれはね、それこそじゃあ障害者はいったいどうしたらいいですかと。ずっとこれは問題提起をしてきた。もう 1 年以上になってずっと問題提起をしてきた。それに対して誠実に答えていただけないと。私たちはそれは大きな問題じゃないかなと思っております。

知事:一年だというともう一昨年からですね、2年ですよ。おととしの秋ぐらいからじゃなかったですか。去年の 6 月でしたっけ名古屋市役所の前で抗議活動されたのは。

辻:デモ行進やって座り込みやって。

知事:もう一年たっちゃいますもんね。全然事態は改善されてないんですよ。

斎藤:新技術新技術と言われるだけで、それで自分はバリアフリーを考えてるんだと。ただ言いづけているだけです。

知事:障害者をドローンで飛ばすっていうような話はもう聞くだけでもおぞましいですね。

辻:そうですね。そういう技術もまだ確立されてないもの。それを 4 年後にやるのだと。非常に私は発言として無責任だなあ。

知事:そういうこと考えること自体が障害者差別じゃないか。

辻:そうです、そうです、無責任な発言だと

知事:障害者はモノかねという話じゃないですか。ドローンで飛ばすというのは、もう耳をふさぎたいですね私は。あきれてものが言えないというところじゃない、耳をふさぎたい。聞きたくないそんなもの。

だって今回確認ですがこのエレベーター設置を実現する実行委員会は愛知県のね団体の皆さんがやっておられる、これはあれですよ全国の障がい者団体の全国団体の皆さんもたしか名古屋市に抗議文を送っていましたよね。

辻:日本障害フォーラム、全ての障害者団体が加盟している。

知事: JDF ってやつですか

辻: 日本障害フォーラム、JDF。また DPI 日本会議も抗議文を出しております。これはそれこそこの愛知県だけの問題でなくとも全国の問題にも波及しておりますので、できるだけ早く速やかに名古屋市としてこの撤回していただきたいと思います。

知事: ね、そういうことしかないと思います。

斎藤: はい。まああのこの間市議会の方でもご挨拶、会派に回らしていただいたんですけども。市議会としても覚えがあるみたいですけど自分たちも一端賛成したから、いろいろ動かすのが難しいという。そういう言い方をされていましたがけれども

知事: 事態は変わっちゃいましたからね。

斎藤: そうですね

知事: 許可は出ないんですから。そんなもん。先週も定例会見で申し上げた。最初からわかっていた。許可なんか出ないのはみんなわかってやってんじゃないんですね。最初から無理だ難しいと言われてましたよねと、なんでここまで突っ込んでいったのかというのは不思議でしょうがない。

斎藤: 市長はじめ市の幹部の方もみんな、議会の方も本当に正直なところ全然言われなから。それが不思議でしょうがないですけど。

辻: そんな形で本日条例に基づいて救済の申し立てを行いましたので、ぜひ今後できるだけ早く、どういう形かちょっと私はわからないんですけど、ぜひ知事さんのお力添えをいただいて、この問題に取り組んでいただきますようよろしくお願いします。

知事: はいわかりました。本腰を入れてやりますので。ご苦労様でした。

辻: 有難うございました。